



風の中のすゞばる
その時、私の頭の中をあの中島みゆきの勇ましいテーマソングが流れていました。

そう、阿蘇の山奥の五十床足らずの小さな病院の内科医である私は今、何と大病院の手術室で、四半の大きな食道がんを内視鏡ではがす治療(ESDⅡ内視鏡的粘膜下層はく離術)を、衆人環視のもとやっているのです。

うれしい電話

話は一本の電話から始まりました。「大学医学部付属病院のxxですが、先生に食道がんを取って頂きたい患者さんがいるのです」

私は唐突の電話に非常に驚き

阿蘇の山奥で最新医療

ました。なぜなら、私は一介の町立病院医師であり、こちらの大学医学部とは何の関係もありませんでした。なぜなら、私は一介の町立病院医師であり、こちらの大学医学部とは何の関係もありませんでした。なぜなら、私は一介の町立病院医師であり、こちらの大学医学部とは何の関係もありませんでした。

てくれたのでした。食道周辺には心臓や肺などの臓器があるため、食道表在がん

(表面に留まる早期がん)の内視鏡治療は、非常に危険性と難易度が高く、まだまだ九州では手を出している先生が少ないのが現状なのです。

赤の他人の私が、地元の大病院で内視鏡を握って難しい患者さんの治療をするなど誰が想像したでしょうか。

しかし、非常に光栄なこと。このプロジェクトを請け負った

以上は安全に治療するのみです。中島みゆきの歌を心の中で歌いながら約二時間、多くのギヤラリーを尻目に私は目の前の画面にのみ集中し、何とか安全に腫瘍(しゅよう)を取りきれたのでした。

レベル高い母校

私たち自治医大卒業の医師は、栃木の母校で学んだあと、ほぼ全員、地元で研修を受けてへき地医療の現場に赴任します。

私の場合、卒業四年間はのんびりと田舎で診療していましたが、五年目の後期研修の際に、内視鏡(胃カメラ・大腸カメラ)の再勉強のつもりで母校の消化器内科(菅野健太郎教授)の門をたたきました。

そこで出会った、学生時代には気付かなかった最新医療の数々。医師になって戻ると、母校が全国的にも極めて高いレベルの医療を行っていることを初めて知りました。そこで、このESDなるものを山本博徳助教授に伝授いただき、今に至っているわけです。

私が幸運だったのは、どこの町立病院にも胃カメラと安価な高周波装置があり、大抵どの病院でもこのESDの手法が出来ることです。

いずれの病院でも、その先生や職員たちはこの初めて見る手技に驚き、好意的に受け入れてくれ、また幸いにも安全に出て来ています。これからも阿蘇の山奥でこの最新の内視鏡治療を、患者さんに行っていくつもりです。

(次回予定は福岡県)

西村 誠 20期・1997年卒



通潤橋は1854(安政元)年に完成した国の重要文化財。国保蘇陽病院がある山都町のシンボル。水を渡す水路橋で、人を渡す橋ではない

山都町立蘇陽病院内科

【私の勤務地】山都町は熊本県の東部で、阿蘇南外輪山から九州山地の脊梁(せきりょう)を圏域とし、宮崎県と接している。当院はその標高約500mにあり、開設して約60周年になる。熊本と神話の里・高千穂とを結ぶ交通の要所に位置し、多数の宮崎県からの患者さんが見える。